

#### 4-1 65歳のエンゲルスの一曰

「あなたはプレハーノフの著書『われらの意見の相違』にかんする私の意見を問い合わせられました。お答えするためには、私は同書を読んでいなければならなかったでしょう。ロシア語は、もう一週間もかければ、かなり楽に読めるようになるのです。ところがときたま、半年ものあいだ私にはそれができないことがあります。そんなことをしていれば、習ったロシア語もだめになり、いわば新規まきなおしで勉強しなおさなければならないことになります。『意見の相違』の件はそういうことになっています。——私は秘書に書きとらせるマルクスの草稿に終日没頭します。夕方になるとみんながおしかけてきますが、けっきょくはおっぱらえないことになります。校正刷をよみ、たくさんの手紙をかたづけなければならず、そして最後に、まだ私の『起源』〔『家族、私的所有、国家の起源』〕（ママ——青山）の（イタリア語、デンマーク語などの）翻訳まであるのです。この翻訳を私に通読してくれというのですが、それに手をいれるのは、ときとすると、よけいなことでもたやすいことでもありません。さて、こうしたいろいろの中断に妨げられて、『意見の相違』の60ページから先にすすむことができなかったのです。3日間一人にしておいてもらえれば、この件をかたづけ、そのうえ、私のロシア語の知識をよみがえらせることができるのですが。」

⑤-[139]P259-261上7（ザスーリチあてのエンゲルスの手紙 1885. 4. 23）参照。